

環境マネジメント

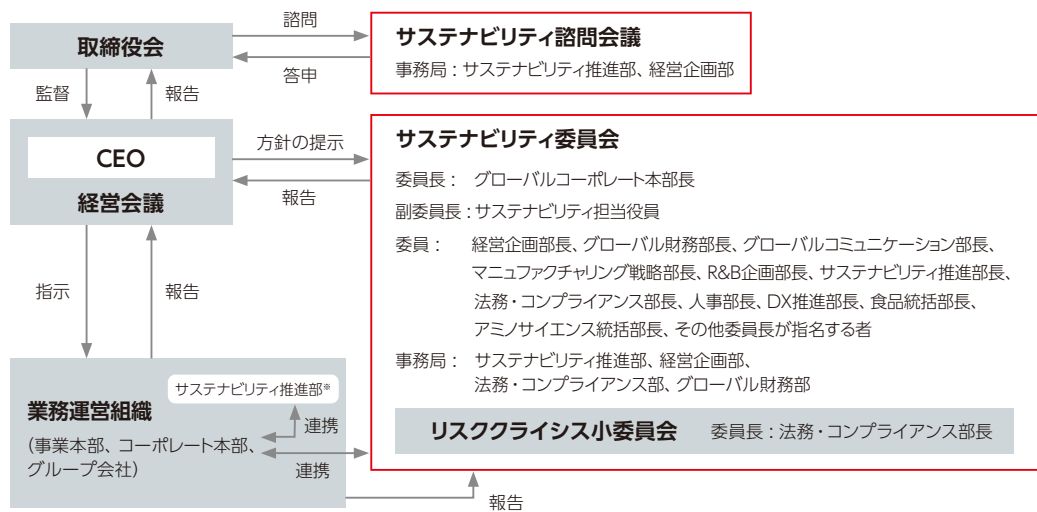
体制

GRI301-DMA
GRI302-DMA
GRI303-DMA
GRI303-2
GRI304-DMA
GRI305-DMA
GRI306-DMA
GRI307-DMA

> 環境に関するグループポリシー

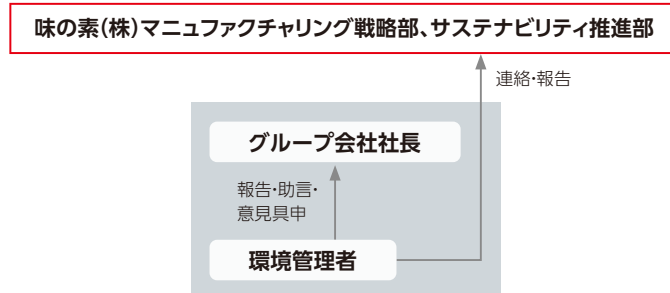
環境マネジメント運用体制

味の素グループは、取締役会の下部機構としてサステナビリティ諮問会議、経営会議の下部機構としてサステナビリティ委員会を設け、環境活動に関する方針および諸施策等の審議を含むサステナビリティ経営を推進しています。各グループ会社においては、基幹職の中から環境管理者を1名設置するものとしています。環境管理者は、水資源の保全や生物多様性に関する事項を含む「環境に関するグループポリシー」やサステナビリティ委員会における決定事項に基づき自社における計画を策定し、それを社内に周知徹底しています。そして、環境活動の遂行状況および改善課題等に関し、グループ会社の社長へ報告および助言・意見具申を行い、また、味の素(株) マニュファクチャリング戦略部およびサステナビリティ推進部その他関係組織へ連絡・報告しています。



※ サステナビリティ委員会と協働して方針・戦略の策定、事業計画へのサステナビリティ視点の提言、施策のフォローを行う。

グループ会社における運用体制



ISO 14001の認証取得状況

2021年3月現在、味の素グループは対象106工場のうち、66工場でISO 14001の認証を取得しており、未取得のグループ会社でもISO 14001の考えに基づいたマネジメントを推進しています。なお、Dow Jones Sustainability Indexの調査におけるEMS認証の取得割合の算出方法に合わせ、ISO 14001の認証取得数の算出方法を2020年度より変更しています。

環境マネジメント

環境アセスメントの実施

味の素グループでは、新製品の発売や新事業の開始、原料や生産工程の変更等がある場合、事前にその事業計画の環境影響を評価し適切な施策を講じることで、将来の環境リスク軽減に努めています。各社の社内規程に従って実施責任部門等が環境アセスメントを行い、その内容を環境マネジメント部門がグループ全体の視点で審査しています。

環境アセスメント項目

1. 法令順守	—
2. 典型7公害	大気汚染、水質汚濁、騒音、臭気、土壌汚染等
3. 地球環境問題	省エネルギー、再生可能エネルギー、フロン、物流効率等
4. フードロス削減	賞味期限延長、年月表示化等
5. 持続可能な調達	生物多様性保全、認証原料、認証紙、バイオプラスチック等
6. 水資源	水使用量、排水量の削減
7. 廃棄物の処分	廃棄物適正処分、排出者責任等
8. 循環型社会形成	3R、過剰包装、副生物の有効利用、廃棄物発生抑制等
9. 有害物質管理	新規化学物質、PCB、アスベスト等
10. 建築物の影響	日照権、電波障害等
11. 生活者のエコライフ意識の醸成	環境ラベルの表示

環境監査の実施

味の素グループでは、ISO 14001への適合を確認する外部審査のほか、環境に課題がある事業所に対しては、味の素（株）のマニュファクチャリング戦略部が「環境監査要領」に基づいて環境監査を実施しています。2020年度は、環境監査の対象となる事業所はありませんでした。

環境法令および環境事故への対応

味の素グループは、環境に関する法令違反や事故等が発生した場合に、速やかに対策を講じています。2020年度は、カルタヘナ法違反が1件発生しました。行政指導に基づき適切な是正措置を行いました。事業場外の環境に影響を及ぼす事故は国内で3件（騒音苦情2件、フロン漏洩1件）、海外で5件（臭気苦情2件、アンモニア漏洩1件、フロン漏洩2件）発生しました。いずれも速やかに行政への必要な報告を行い、原因究明と必要な措置を実施しました。今後も環境法令違反や事故等が発生した場合は、速やかに対策を講じてまいります。

実績

GRI307-1

環境マネジメント

実績

環境教育

■ 専門教育

環境に対して適切な事業運営を行うために、各業務に応じた専門的で実践的な知識や技術の習得を行う環境教育を実施しています。日本では、各組織に設置している環境管理者・責任者・担当者に対する教育、新事業・製品を企画する事業部門・研究部門担当者に対する環境アセスメント教育等を継続的に実施しています。また、頻繁に改正が行われる環境法令をタイムリーに把握し、確実な対応を行うために、環境法令に関する担当者等を対象に「環境法令研修」を行っています。

■ 2020年度の主な教育（日本）

- 内部環境監査員養成講座（1日コース）：2回実施、48名受講
- 環境法令研修
 - 国内環境法令研修（法令改正動向等セミナー）：1回実施、54名受講
 - 廃棄物処理関連法研修：1回実施、14名受講
 - 化審法研修：1回実施、68名受講

■ 一般教育

日本では、味の素（株）のマニュファクチャリング戦略部が人事部門、総務部門等と連携をとりながら、味の素グループの環境マネジメントについて周知するとともに、各階層における役割について継続的に教育を行っています。

■ 2020年度の主な教育（日本）

- 技術系海外赴任前研修

TCFD、SBT、RE100に関する取り組み

気候変動については、具体的な目標、達成に向けた戦略、ガバナンス体制の整備、施策のために必要な財務的裏付け、そしてこれらの情報開示が社会から各企業に求められています。味の素グループは、気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）提言への賛同を表明し、これに沿って情報開示の準備を進めています。また、設定した目標について、2020年4月に主要なグローバル企業が賛同している共同団体SBTiの認定を取得し、同年8月に電力の100%再生可能エネルギー化を目指すRE100への参画を表明しました。

生物多様性に関する考え方

味の素グループは、生態系・生物多様性に関する考え方を「環境に関するグループポリシー」で表明しており、生態系・生物多様性を含む自然環境の保全への貢献に向け活動しています。

GRI102-12
GRI302-DMA
GRI305-DMA

> 環境に関するグループポリシー
> P76

GRI301-DMA
GRI304-DMA

> 環境に関するグループポリシー

環境マネジメント

マテリアルバランス

味の素グループは、製品のカーボンフットプリント結果と間接部門データを集計し、事業全体が及ぼす環境影響としてスコープ1・2・3^{※1}のデータを算出、把握しています。

2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり生産量が減少した工場があったこと等から排出量が下がり、スコープ1・2合計で前年度比63,090CO₂トン減、基準年である2018年度に対して14%減となりました。

※1 スコープ1：事業者自らによる温室効果ガスの直接排出（燃料の燃焼、工業プロセス、車両等）
スコープ2：他者から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出
スコープ3：その他の排出（製品の使用・廃棄、輸送、従業員の出張・通勤、投資等）

INPUT

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
主原料 (千t)	1,715	1,548	1,439	1,282
副原料 (千t)	2,674	2,901	2,378	2,069
酸・アルカリ (千t)	582	501	486	482
その他 (千t)	2,092	2,400	1,892	1,588
包装資材 (千t)	263	276	241	240
プラスチック系 ^{※2} (千t)	65	69	62	66
紙・段ボール系 (千t)	168	177	154	148
その他 ^{※2} (千t)	30	31	25	26
燃料 (TJ)	29,321	28,680	25,230	24,494
石油 (TJ)	2,449	2,141	1,802	1,653
石炭 (TJ)	3,503	4,703	2,314	3,157
バイオマス (TJ)	7,778	7,330	7,129	6,875
ガス (TJ)	15,591	14,506	13,985	12,809
購入電力 (TJ)	8,177	7,834	7,588	7,200
購入エネルギー（蒸気等）(TJ)	2,091	1,954	1,801	1,800
水 (千kℓ) ^{※3}	74,844	69,892	66,926	64,406
河川水 (千kℓ)	24,433	20,672	19,630	17,004
上水 (千kℓ)	7,007	6,375	6,210	5,316
工業用水 (千kℓ)	27,030	27,766	26,717	29,041
井水 (千kℓ)	16,371	15,076	14,366	13,041
その他（雨水等）(千kℓ)	4	3	3	4
輸送距離 (km)	2,751	2,756	2,804	2,872
使用（スープ・冷凍食品・ コーヒー関連製品）(t)	584,805	556,549	596,264	603,420

※2 定義の見直しに伴い、2017年度および2018年度の数値を組み替えています。

※3 2017年度の単位は千t

GRI102-56

GRI301-1

GRI302-1

GRI302-2

GRI302-3

GRI302-4

GRI302-5

GRI303-3

> 環境データ
第三者保証証明書

> 環境データ
製品のCFP値

> 環境データ
エネルギー構成比

> CDP
Climate Change
(英語のみ)

環境マネジメント

GRI305-1
GRI305-2
GRI305-3
GRI305-4
GRI305-5
GRI306-3
GRI306-4
GRI306-5

OUTPUT

(t-CO₂e)

	2017年度*	2018年度	2019年度	2020年度
スコープ3 カテゴリー1 (原材料)	8,151,004	8,115,946	7,784,783	7,614,734
スコープ1	1,244,676	1,196,969	1,013,315	1,008,811
スコープ3 カテゴリー3 (生産)	406,443	381,765	625,142	630,823
スコープ2	マーケット基準 1,072,248	マーケット基準 1,015,723	マーケット基準 960,375	マーケット基準 901,789
	ロケーション基準 1,092,482	ロケーション基準 1,026,764	ロケーション基準 978,066	ロケーション基準 910,791
スコープ3 カテゴリー4 (輸送)	1,298,840	1,274,589	1,256,044	1,210,741
スコープ3 カテゴリー11 (使用)	1,308,597	1,294,392	1,353,234	1,355,477
スコープ3 カテゴリー12 (廃棄)	443,755	443,333	431,048	425,003
スコープ3 カテゴリー2 (資本財)	249,316	249,944	255,910	262,711
スコープ3 カテゴリー5 (事業上の廃棄)	81,931	140,678	85,666	85,714
スコープ3 カテゴリー6 (出張)	4,255	4,479	4,486	4,226
スコープ3 カテゴリー7 (通勤)	15,398	16,206	16,231	15,292
スコープ3 カテゴリー8 (上流のリース資産)	カテゴリー1に含む	カテゴリー1に含む	カテゴリー1に含む	カテゴリー1に含む
スコープ3 カテゴリー9 (下流の輸送)	4,518	3,780	3,503	3,183
スコープ3 カテゴリー10 (販売した製品の加工)	8,126	8,161	5,517	179,801
スコープ3 カテゴリー13 (下流のリース資産)	0	0	0	0
スコープ3 カテゴリー14 (フランチャイズ)	0	0	0	0
スコープ3 カテゴリー15 (投資)	0	0	0	0
スコープ3合計	11,972,183	11,933,273	11,821,564	11,787,705
スコープ1,2,3合計	14,289,107	14,145,965	13,795,254	13,698,305

※ 2017年度の単位はt-CO₂

データの算出について

集計対象範囲：ISO 14064-1の定める対象全146事業所（100%）

集計対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日

上表のマテリアルバランスにおけるCO₂e排出量は、ISO 14064-1を参照し、最新のCO₂e排出係数を用いて算出しています。これらのCO₂e排出量については、ロイド・レジスター・クオリティ・アシュアランス・リミテッドがISO 14064-3の要求事項に従って検証した、第三者保証声明書を取得しています。

環境マネジメント

GRI301-DMA
GRI306-3
GRI306-4
GRI306-5

> P86

味の素グループは、バリューチェーンを通じた原材料のインプットおよび廃棄物のアウトプットの動きを以下の通り把握しています。

バリューチェーンを通じたインプット／アウトプットの流れ

